

# 第1章 テーマ設定の理由と研究の計画, 目的及び方法

# 令和2年度の研究について

## 研究テーマ

### 『幼児期における社会情動的スキルの発達』（第1年次）

## 第1章 テーマ設定の理由と研究の計画、目的及び方法

### 1. テーマ設定の理由

平成30年6月、文部科学省から「Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」が示された。Society5.0は、『人口知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが「非連続的」と言えるほど劇的に変わることを示唆するもの』とされており、文中ではこれからの生活が便利で快適になっていくことと共に、急激な変化に対する漠然とした不安についても言及している。そのような社会で共通して求められる力として、①文章や情報を正確に読み解き、対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究心が必要であるとされている。その3つの力をどのようにしてこれからの教育で育てていくのか、幼児期については以下のようなことが述べられている。①幼児期の教育の特性はどのように社会が変革しようと普遍的である、②教師の指導の効果等の把握に関しては、Society5.0時代の先端技術を活用することが考えられる。つまり、幼児教育は今まで大切にしてきたことを引き続き大切にしながら保育していく、ということになる。では、今まで大切にしてきたこととは何か。幼稚園教育要領解説の総説に「幼稚園では、幼児期にふさわしい生活を展開する中で、幼児の遊びや生活といった直接的・具体的な体験を通して、人と関わる力や思考力、感性や表現する力などを育み、人間として、社会と関わる人として生きていくための基礎を培うことが大切である」（第1章総説 第1節幼稚園教育の基本 1.人格形成の基礎を培うこと）とあるように、日本の幼児教育では「心情・意欲・態度」を大切にしてきたことは周知の事実である。この「心情・意欲・態度」は、近年注目されている「非認知的スキル」（非認知能力）と近似しており、無藤・古賀（2016）は『日本の幼児教育は「心情・意欲・態度」を大切にすることで、非認知能力を育成してきた』と述べている。

「非認知的スキル」とは、経済学者のジェームス・ヘックマンによる研究によって注目された概念であり、その研究（ペリー就学前プロジェクト等）では、社会的成功には学力以外のもの（非認知的スキル）が必要であるということ、就学前教育への公的資金投入が効果的であることが示されている。OECD（経済協力開発機構）では「社会情動的スキル」として、目標の達成（忍耐力・自己抑制・目標への情熱）、他者との協働（社交性・敬意・思いやり）、感情のコントロール（自尊心・楽観性・自信）の3つに分類されており、これからの社会において認知的スキルと同様に重要であると述べられている。つまり、Society5.0を見据えた幼児教育について

考えた時、社会情動的スキルの育成という視点をもって保育を展開していくことが重要であると言える。本園でもこれまでの研究で「学びをつなぐカリキュラムの編成に向けて～協同して生活する姿をみつめて～」(本園研究紀要第56集)、「友達とかかわり合いながら創る生活 一トラブを通して一」(第46集)等、社会情動的スキルに含まれる要素についての研究をしてきている。それらの研究の成果は教育課程や指導計画に位置づいてはいるが、教員同士でその内容を再確認したり、内容を更新したりしていくことが課題となっている。

そこで、社会情動的スキルという視点から保育を捉え直し、幼児期における社会情動的スキルの発達の様相を明らかにすることで、保育の質の向上を図るべく、研究テーマを「幼児期における社会情動的スキルの発達」として研究に取り組むこととした。

また、近年この「非認知的スキル」が注目されている理由の一つとして、質問紙調査や行動観察等により測定が可能であることが挙げられる。OECDはスキルを生産性、測定可能性、成長可能性の3つで定義しており、測定可能であることが重要な要素とされている。これまで学力に関するテスト等のいわゆる「認知的スキル」に比べ見えにくかった「向社会行動」「自己抑制」等を客観的データとして示すことができるという点は、幼児教育における学びをいかに伝えるかという課題に対して有効であると考えられる。近年の幼児教育における課題の一つとして、幼児期の教育における学びや育まれている資質・能力の社会に対する発信が挙げられており、本園としても取り組むべき課題として認識している。令和元年10月1日より幼児教育の無償化が実施され、幼児教育への期待の高まりと共にその説明責任を果たすことが重要視されている。

「社会情動的スキル」の測定に取り組むことで、幼児教育における学びをより分かりやすく発信できると考えている。

## 2. 研究計画

<第1年次>

- ・「非認知的スキル」「社会情動的スキル」についての理解を図り、「社会情動的スキル」を定義づける。また、実践事例を収集し、幼児の社会情動的スキルの発達の様相を探る

<第2年次>

- ・抽出児を選定し、事例を収集する。収集した事例を「探究心」「自己主張」「自己抑制」の視点で考察し、幼児の社会情動的スキルの発達の様相を明らかにする

## 3. 研究の目的

- ・幼児の社会情動的スキルの発達の様相を探る

## 4. 研究の方法

- ・事例を収集、考察し、考察した内容を検討する